

自ら学ぶ力を高める「学習方略の探究」の実践報告

芝中学校・芝高等学校 岡田 憲治

実践背景

課題

- ・中学に入り、適切に学習活動(特に自主学習)を進めることができていない生徒がいる。
- ・小学校までの学習活動において、自身の学習を振り返ったり改善したりするような経験が乏しいと考えられる。

仮説

「学び方」そのものについて知識を持ち、自身の学習に活用し、検証するような機会をもつことで、より自身の学習の質を高めることができるのではないか。

実践方法

対象

本校の中学1年生男子308名を対象。

実践期間

2学期の「総合的な学習の時間」の授業4回(9/30, 10/7, 10/21, 10/28)で実施。

実践の内容

「総合的な学習の時間」の授業4回を使って、学習方略をテーマに活動を行った。授業は全てクラス担任が行い、生徒はこちらが用意した「学習方略の探究ワークブック」を用いて活動を進めた。具体的な内容は以下の通り。

DAY1 9/30(月)

学習方略について学び、試しにやってみる

- ・3つの学習方略「反復方略」「精緻化方略」「体制化方略」について学ぶ。
- ・これまでの学習で3つの学習方略に当てはまるものがあったか振り返ってみる。
- ・学習方略を意識した学習を次週までに1つ取り組み「学びログ①」に記録する。(DAY2までの課題)

DAY2 10/7(月)

やってみた学習方略を共有し、さらにレベルアップさせる

- ・「学びログ①」をペアもしくはグループで共有し、フィードバックをもらう。
- ・フィードバックをもとに、レベルアップした「学びログ②」を作るためのアイデアを練る。
- ・「学びログ②」に取り組む。(DAY3までの課題)

DAY3 10/21(月)

考査に向けて有効な学習方略を手に入れる

- ・「学びログ②」をペアもしくはグループで共有し、フィードバックをもらう。
- ・考査に向けて効果がありそうな学習方略案(「学びログ③」)を作る。

DAY4 10/28(月)

振り返る

- ・これまで学んだ学習方略を振り返り、今後も活かすための気づきを得る。

※DAY3とDAY4の間に2学期中間考査(10/22(火)~26(土))をはさんでいる。

生徒が取り組んだ「学びログ③」

学びログ③(DAY3→考査→DAY4)

教科	学習内容	方略の種類 選んだものに丸を付ける。	具体的なやり方 箇条書きで簡潔に書く。 使った方略は後ろにA・B・Cで分かるようにする。
地理	位置の関	A:反復方略(くりかえす) B:精緻化方略(つなげる) C:体制化方略(まとめる)	山域や盆地、海などの特徴から気温につなげ(B)食文化も考察する(C)
具体的なイメージ			
効果がありそうな理由			
相手を覚えて、奪える問題も解けるから			

取得データおよび検証方法

【取得データ】

実践における効果検証のアンケート項目をもとに作成

- ・アンケートA「学習動機(10項目)」「学習観(24項目)」
- ・アンケートB「学習方略(34項目)」

【方法】

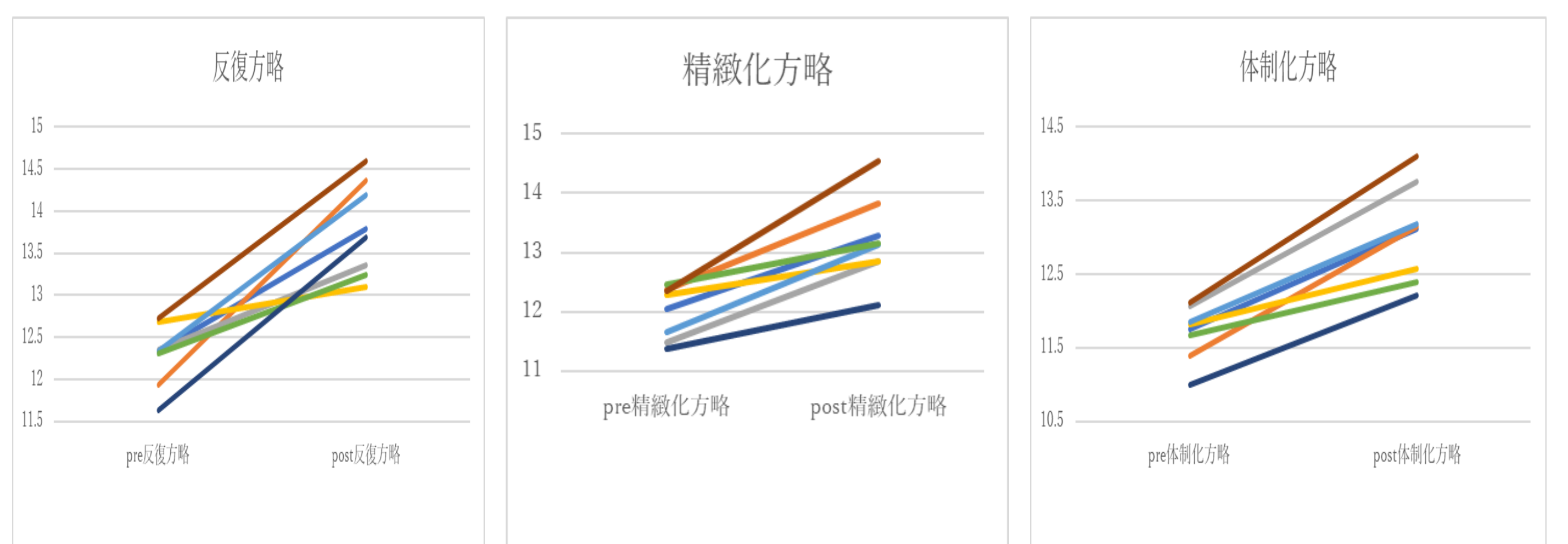
- ・質問紙得点について、対応あるt検定(pre-post)を行った。
pre 9/30(月)223名, post 10/28(月)226名

結果

[I]すべてのクラスにおいて、反復方略・精緻化方略・体制化方略が上昇した(5%水準で有意差あり)。

[II]精緻化方略は他の方略と比べて得点の上昇は大きくない。

[III]新しい学習方略を積極的に取り入れたクラス群とこれまでの学習方略を継続しようとするクラス群が見受けられた。



考察と今後の課題

考察

- [I]自身の学習活動を「学びログ」の作成を通じて見える化することで、方略を意識しやすくなり、その結果、方略の活用を促すことができたのではないか。
- [II]精緻化方略は用語の獲得の後に時間をかけて行なわれる作業であると考えられる。中間考査の時期との重複もあり、直接得点のつながる学習方略が優先されたのではないか。
- [III]これまでの学習方略を継続しようとするクラス群は内容分離動機が高かったクラス群でもあった。より高得点をとるために、自身の成功体験と結びつく方略を継続して使用したのではないか。

今後の課題

定期考査が入ることで子どもたちの学習方略は変化することも考えられる。長期的な取り組みが生徒の学習の質の向上、学習観の変容をもたらすのかを明らかにしたい。